

私立大学研究ブランディング事業

令和元年度の進捗状況

学校法人番号	021004	学校法人名	八戸工業大学		
大学名	八戸工業大学				
事業名	北東北の人口減少社会における自律的課題解決に向けたハブ機能構築と社会的資本の維持開発研究事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	1600人
参画組織	大学院工学研究科、工学部、感性デザイン学部、基礎教育研究センター、地域産業総合研究所、工作技術センター				
事業概要	<p>地域大学としての本学の特徴は、地域課題やリソースに関する情報を集約して、解決「工程」を示すことができる点にある。企業と生活者が行政とともに自律的かつ主体的に地域発展に携わり、雇用創出と定住者拡大が実現できるよう、社会資本および社会的資産に関する研究と地域資源・地域課題に関する情報集積機能を強化するとともに、ブランディング活動を通じて地域に不可欠な課題解決ハブとなる大学となるための諸施策を講ずる。</p>				
①事業目的	<p>本事業では、北東北地域の課題とめざす姿に対する地域の工学系の大学としての役割と本学のこれまでの実績を背景として、寒冷地域かつ人口減地域における防災および社会インフラの長寿命化技術の開発研究をさらに加速させると共にインフラ・まちづくりに関わる社会システムを新たな研究テーマとして設定し実施する。さらに、これらの研究を基盤としてインフラ・地域づくりに関連する人材の育成と研究成果の社会実装も含めた総合的インフラ研究拠点を構築することで本学の独自色を地域に打ち出すことを目指す。また、これらの活動を通して、地域の「安全・安心・快適な暮らしの創造」と「農林水産業・工業・観光業など産業・雇用の活性化」に貢献することを目的とする。</p>				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】 ○研究実施プロジェクトチーム (A) インフラ社会システム研究部門: 知の基盤強化 (B) インフラ基盤技術研究部門: 長寿命化技術の開発と要素技術の統合によるシステム開発 (C) 防災技術研究部門: 被害予測手法の開発と減災技術開発 ○人材育成・社会実装プロジェクトチーム 人材育成プログラムを活用した研究成果の社会実装支援のための仕組みの構築 ○ブランディング推進プロジェクトチーム ブランディング活動とPDCAサイクルの本格運用</p> <p>【実施計画】 ○研究実施プロジェクトチーム (A) インフラ社会システム研究部門: 大学に産学官が共用できるプラットフォーム形式を導入し、コミュニティに応じた共通課題を検討するため、分野や組織を越えた研究者が集う体制を構築する。 (B) インフラ基盤技術研究部門: 各種インフラおよび材料の長寿命化のための技術を開発し、計測・点検・維持管理に関して要素技術の統合によるシステム全体の開発を行う。 (C) 防災技術研究部門: 各災害の被害予測をブラッシュアップすると共に、防災・減災のための技術開発を実施する。 ○人材育成・社会実装推進プロジェクトチーム 人材育成プログラムの中に研究部門の最新の成果を組み込み、社会実装を支援するためのメニューを構築する。この認定プログラムは、基礎編、応用編等、対象とする技術者のレベルに応じて検討する。 ○ブランディング推進プロジェクトチーム SNSとWebサイトの一部改訂。シンポジウムとワークショップ、高校との協同事業実施。導入転換教育の継続とキャリアデザイン教育の試行実施。PDCAサイクルに基づく改善活動の実施。アニュアルレポートの作成。</p>				

<p>③令和元年度の事業成果</p>	<p>○研究実施プロジェクトチーム (A) インフラ社会システム研究部門: 地域の住民自身が自立的に地域の活性化を行うための体制づくりにつなげていくことを目的として、勉強会やワークショップを行った。また、人口減少社会における地域インフラのあり方に関する研究を進めた。 (B) インフラ基盤技術研究部門: 寒冷地インフラの老朽化メカニズムの解明と対策手法の研究を進めた。また、計測・点検・維持管理のシステム全体に関する開発を進めた。 (C) 防災技術研究部門: 各災害の被害予測・対策技術に関する研究を進めた。</p> <p>○人材育成・社会実装推進プロジェクトチーム 地域の課題・ニーズを踏まえ、技術者の育成・高度化を目的とした研修施設や、認定プログラムを検討した。また、道路橋の長寿命化対策に係わる技術講習会(7/25)、寒冷地におけるコンクリート構造物の品質確保およびRC床版の高耐久化に関する講習会(8/21)、第1回あおもりインフラ・イノベーションフォーラム～地域のインフラ基盤技術の未来～(2/3)などを開催した。</p> <p>○ブランディング推進プロジェクトチーム 掲載マニュアルを策定し、Webサイトに活動状況を掲載した。昨年度に引き続き、コンセプトブック、コンセプトサイトを利用した広報活動を行った。また、アニュアルレポートを作成し、コンセプトサイトに掲載した。</p>																																														
<p>④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 研究ブランディング事業推進会議にて、指標をもとに、自己点検・評価を行った。</p> <p>○研究実施プロジェクトチーム</p> <table border="1" data-bbox="406 824 1300 922"> <thead> <tr> <th><指標></th> <th>【目標】</th> <th>【実績】</th> <th>【達成度】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 査読付き論文・国際会議発表の件数</td> <td>12件</td> <td>14件</td> <td>117%</td> </tr> <tr> <td>(2) 口頭発表の件数</td> <td>23件</td> <td>11件</td> <td>48%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○人材育成・社会実装推進プロジェクトチーム</p> <table border="1" data-bbox="406 981 1401 1108"> <thead> <tr> <th><指標></th> <th>【目標】</th> <th>【実績】</th> <th>【達成度】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 人材育成・社会実装プログラム数(講演会、講習会など)</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>120%</td> </tr> <tr> <td>(2) (1)の講師数</td> <td>12人</td> <td>7人</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>(3) (1)の参加人数</td> <td>250人</td> <td>778人</td> <td>311%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ブランディング推進プロジェクトチーム</p> <table border="1" data-bbox="406 1167 1385 1355"> <thead> <tr> <th><指標></th> <th>【目標】</th> <th>【達成度】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) SNS, Webサイトの改定、情報発信</td> <td>100%</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>(2) シンポジウム、ワークショップ、高校との協同事業の実施</td> <td>100%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>(3) 導入転換教育の継続とキャリアデザイン教育の施行実施</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>(4) PDCAサイクルに基づく改善活動の実施</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>(5) アニュアルレポートの作成</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(外部評価) 令和2年2月5日に八戸工業大学外部評価委員会を開催した。今年度の事業成果及び来年度の実施計画を説明し、5名の委員から以下の評価・意見を頂いた。 ○研究プロジェクトチームにおいては口頭発表、ブランディング推進プロジェクトチームにおいては情報発信や外部との関わり(シンポジウムや、高校生との協同事業)がやや不足しているため、達成度を上げる必要がある。 ○地域に向けて、対外的に八戸工業大学が貢献できる内容を含んでいると思う。高校生も巻き込んで、進めてほしい。 ○地域社会と密接に連携し、特に老朽インフラに着目した諸事業は高く評価できる。事業成果をメディアに発信するなど、一層の発展を期待する。 ○来年度の事業計画については、各チームとも、個々の指標、目標件数、目標達成度において、今年度の成果及び実施内容を上回る計画となっており、妥当性が十分に認められる。</p>	<指標>	【目標】	【実績】	【達成度】	(1) 査読付き論文・国際会議発表の件数	12件	14件	117%	(2) 口頭発表の件数	23件	11件	48%	<指標>	【目標】	【実績】	【達成度】	(1) 人材育成・社会実装プログラム数(講演会、講習会など)	5件	6件	120%	(2) (1)の講師数	12人	7人	58%	(3) (1)の参加人数	250人	778人	311%	<指標>	【目標】	【達成度】	(1) SNS, Webサイトの改定、情報発信	100%	80%	(2) シンポジウム、ワークショップ、高校との協同事業の実施	100%	75%	(3) 導入転換教育の継続とキャリアデザイン教育の施行実施	100%	100%	(4) PDCAサイクルに基づく改善活動の実施	100%	100%	(5) アニュアルレポートの作成	100%	100%
<指標>	【目標】	【実績】	【達成度】																																												
(1) 査読付き論文・国際会議発表の件数	12件	14件	117%																																												
(2) 口頭発表の件数	23件	11件	48%																																												
<指標>	【目標】	【実績】	【達成度】																																												
(1) 人材育成・社会実装プログラム数(講演会、講習会など)	5件	6件	120%																																												
(2) (1)の講師数	12人	7人	58%																																												
(3) (1)の参加人数	250人	778人	311%																																												
<指標>	【目標】	【達成度】																																													
(1) SNS, Webサイトの改定、情報発信	100%	80%																																													
(2) シンポジウム、ワークショップ、高校との協同事業の実施	100%	75%																																													
(3) 導入転換教育の継続とキャリアデザイン教育の施行実施	100%	100%																																													
(4) PDCAサイクルに基づく改善活動の実施	100%	100%																																													
(5) アニュアルレポートの作成	100%	100%																																													
<p>⑤令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>研究費: 膜ろ過用圧力タンク製作費、画像分析装置、凍上試験機整備一式、振動試験装置修理 広報・普及費: フォーラム会場費、コンセプトサイト維持費 その他: 研究打合せ旅費、成果発表旅費、外部講師等招聘謝金・旅費</p>																																														